

<b>経営組織論</b>		<b>講義</b>	<b>教授 丸山 高行</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネスコースの専門 選択科目 経営・経済コースの選択必 修科目 教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23201202 25320224</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

企業などの組織の基本的な構造やマネジメント方法が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。具体的には、現実の企業内の組織構造、経営組織のデザイン、経営組織のマネジメント、組織形態の変革、経営組織に対するガバナンスという5つのテーマに基づき、経営組織論の基本的な知識を整理する。また、機関設計や組織再編など、会社法の本格的な領域に歩を進めるとともに、インセンティブ設計やストックオプションといった、経済・ファイナンス分野の専門知識にもアプローチする。

### 2. 授業の進め方

毎回の授業は、レジュメや配布資料等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、その日の授業で学習した内容に関する課題として3問程度練習問題を提示し、授業内容の理解を進める。教室での受講に加えて、この課題の期限内提出をもって授業への出席とカウントする。

### 3. 授業計画

1. イントロダクション	9.モチベーションを高める賃金体系と退職金制度
2. 経営組織の基本型	10. 確定給付企業年金と確定拠出年金
3. 経営組織のデザイン（特に階層構造の設計）	11. 株式会社の機関設計
4. 経営組織のデザイン（特に事業部制の活用）	12. 取締役の責任と義務および報酬制度
5. 経営組織のバリエーション	13. 経営組織のダイナミックな変革（特にM&A）
6. 経営組織のマネジメント	14. 経営組織のダイナミックな変革（特に持株会社制度）
7. リーダーシップとモチベーション	15. 全体のまとめ（コーポレートガバナンスとリスク管理）
8. 組織内・組織間のコミュニケーション	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

レジュメは、1回の授業につき、パワーポイントのスライド12枚が提供される（経営組織論全体で180枚）。スライド12枚は、基本的に毎回の授業テーマに沿った図表と、図表に関する解説文から構成される。さらに、レジュメには、図表の出典および関連する資料や参考文献へのリンクが貼り付けられている。受講者は、レジュメの内容を理解し、関連資料や参考文献にもアクセスして必要知識を整理することによって、毎回、1時間程度の復習を行うことが望ましい。なお、前年度のレジュメを授業スタート時にGoogle Classroomで公開するので、適宜、予習に役立ててほしい。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、基本的に翌週の授業で解説を加える。期末試験は、課題（4問程度）にレポートの提出を加える形で行う。期末試験については、終了後、解説動画を配信するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

### 6. 授業における学修の到達目標

経営組織論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、定年延長や賃上げの動き、多様化する企業年金制度、ストックオプションなど、経営組織に関係する幅広い話題を取り上げていくので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

## **7. 成績評価の方法・基準**

授業への取組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

## **8. テキスト・参考文献**

毎回の授業で提示するレジュメが、テキストとなる。また、レジュメの中で、適宜参考文献を紹介する。

## **9. 受講上の留意事項**

必修科目として学んだ経営学基礎および経済学基礎の知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、経営組織論は、特にコーポレートファイナンス論、証券投資論、経営戦略論、国際経営論と関係が深いので、できればセットで受講することが望ましい。

## **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

## **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。